

【児童発達支援】こすもすカレッジジュニア新松戸教室

保護者評価表

職員評価表

自己評価総括表

公表日 2026年3月31日

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	1	1			人数に対してだとやはり少し部屋がせまく感じて しまいます。	限りあるスペースの中で人数の幅りが出て窮屈に 感じないよう必要に応じて声掛けをしていきたく と思います。	
	2	1	1					
	3	1	1					
	4	2						
適切 な 支 援 の 提 供	5	2						
	6	2						
	7	1	1					
	8	1	1					
	9	2						
	10	2						
	11				2			
	保 護 者 へ の 説 明 等	12	2					
		13	1	1				
		14	1					
		15	2					
16		1		1				
17		2						
18		1		1				
19		1	1					
20		1	1					
21		1			1			
非 常 時 等 の 対 応	22	2						
	23	1			1			
	24				2			
	25	1	1					
	26	1	1					
満 足 度	27	2						
	28	2						
	29	2						

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	適切に配置するようシフトの段階で二重チェックを行っています。	曜日や利用者数によりバラつきがあります。職員の配置数が適切でも見きれないこともあります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2		事業所が2階にあり階段を使用するためバリアフリーではありません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1		パソコンを使う際にコンセントが足りず配線が転びそうになることがあるため注意しています。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		教室の構造上、完全に仕切りのあるようなクールダウンをする場所がありません。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		非常勤職員を含めた全員に行き渡っていないと感じることがあります。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページにプログラムを掲載しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		非常勤職員含めて共有しきれないこともあります。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24 障害児相談事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を回り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	-	-		
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-		
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-		

関係機関や保護者との連携	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を回り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
保護者への説明等	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41 定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を行っているか。	4	3		
	非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	
46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		7			
47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		7			
48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		7			
49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		7			
50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		7			
51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		7			
52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		7			
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		7			

○事業所名	こすもすカレッジジュニア新松戸教室		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業員評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日		
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	カリキュラムを固定化せず、利用者様一人一人の課題やニーズに応じてプログラムを作成していること。	各曜日ごとに多様な活動を提供できるよう、季節や行事に合わせてカリキュラムを作成し、個別の成長を促進していること。	今後も保護者様や子ども達のリクエストを募り多様な活動を提供できるよう企画していく。他教室と情報共有し、好評だった活動を自教室でも取り入れたい。
2	保護者様や利用者様のご要望を積極的に取り入れ、カリキュラムの作成に反映させていること。	利用者様にとって意味のある支援を行い、信頼関係の構築にも取り組んでいること。また、心理指導担当の意見も落とし込み、一人一人の課題を意識しカリキュラム作成や余暇の時間に対応できる内容を職員間で話し合い、共有していること。	年に数回、保護者参加型のイベントを企画しており、利用者様が楽しんでいる姿を直接見る機会を設けている。利用者様の楽しみだけでなく、保護者様同士の親睦や情報交換の場ともなり、コミュニティの形成を図っていること。
3	利用者様の状況を保護者様に伝え、発達状況や課題について共通理解が出来ていること。	保護者様へのお伝え方法を連絡帳だけでなく、送迎時やメールなどを利用しその日の様子を伝えていくこと。また、保護者様とのコミュニケーションを通じて、双方の理解を深められるよう取り組んでいること。	職員全員がご利用者の課題を理解するために、毎朝の職員会議で振り返りを行い、一人一人の課題や取り組み内容を話し合い、より良いサービスの提供や一貫した支援が提供できるよう、定期的な勉強会に参加し職員間の交流向上に取り組んでいること。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害を想定した避難訓練を定期的に行っているが、保護者様へ十分な周知が出来ていないこと。	避難訓練は定期的に行っているが、周知が十分でないため実施報告が後手となってしまった。	SNSや連絡帳を積極的に活用し改善していく。 また、保護者様へ訓練の様子や内容についても情報を共有する。利用者様にはカリキュラムの中で、災害について繰り返し授業を行い、発生時に行動出来るよう取り組んでいく。
2	利用者様一人ひとりに個別対応をおこなうためには、専門知識を持つスタッフの確保が必要だが、スタッフの確保や余力が十分でないため、時折運営に影響が出ることがある。	限られた人員で運営しているため、新たな人材を育成する時間が十分に取れないことがある。	新人スタッフに限らず基礎知識をつける研修は定期的に行っているが、経験豊富な外部講師を招き短期間で効果的な研修を行い全体のスキル向上を図っていく。また、他のデイサービスとの連携を強化し情報交換を行い運営の質向上を目指していく。
3	地域の場の活用や地域住民(子ども)との関わり	土曜日や長期休暇には地域のイベントへの参加や公共施設、公園、店舗の利用等、地域との交流が図れているが、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会を提供することが難しいこと。	地域の保育所や認定こども園、幼稚園等との関係性を構築し交流の機会を設けていく。また、地域のボランティア団体などの受け入れを行っていく。